

JIU JITSU TODAY

VOL.
05

[ジウジツトゥeday]

2023 SUMMER



ASJJF HIGH RANK BELT GRADING CEREMONY

高段者帯昇格式

大会レポート

COPA DUMAU / MARIANAS PRO JAPAN
TOKYO SPRING / TOKYO INTERNATIONAL
CENTRAL JAPAN / ART.4
柔術甲子園 / ART Philippine.1
KYUSHU INTERNATIONAL
TAIWAN INTERNATIONAL

Interview

CARPE DIEM HOPE 代表
白木大輔
NRCDねわろ倶楽部 代表
樋口幸治

スポーツクリ



すべての スポーツに エールを

スポーツくじの収益は、
日本のスポーツを育てるために
使われています。



くじを買うはエールになる

スポーツくじ



JIU JITSU TODAY 05 発刊

Greeting



「JIU JITSU TODAY」第5号をお手に取っていただきまことにありがとうございます。ご存知の通り、ここ数年猛威を振るっていた新型コロナウイルスの感染法上の位置付けが変更されたことで、これまでのような行動制限もなくなり当連盟が運営する大会も以前の形に戻りつつあります。それに伴い世界各国から大会への参加者が集まり、これまでにない盛り上がりを見せています。今号では日本で行われている大会だけでなく、アジア各地で開催された大会の様を紹介しておりますので、皆様には当連盟の活動を少しでも知っていただければ幸いです。

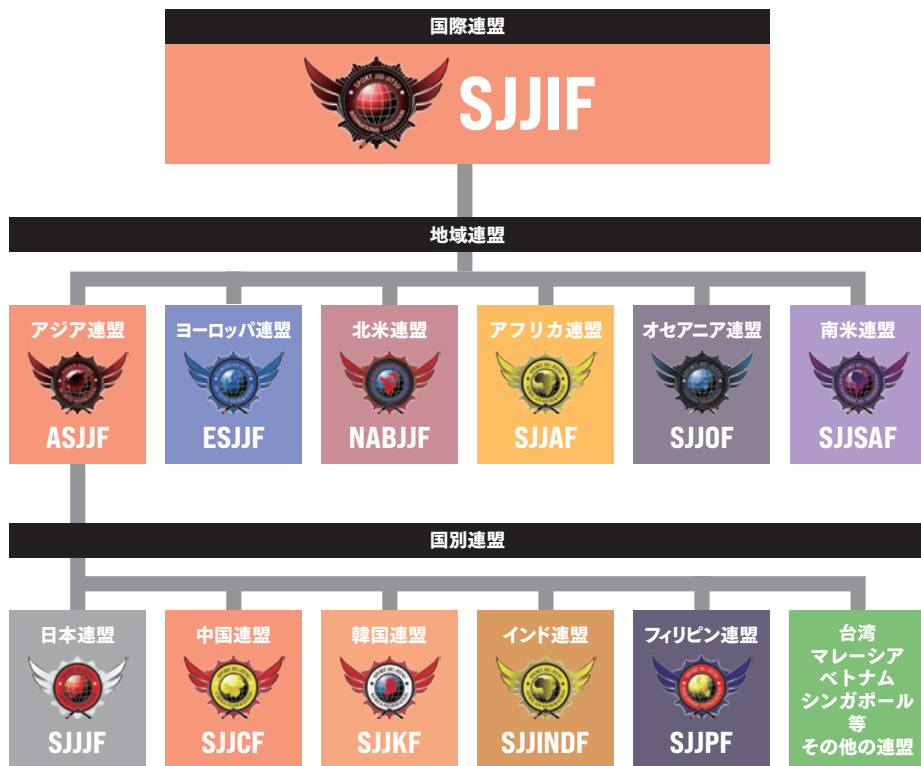


アジアスポーツ柔術連盟会長
籠原エチソン

SJJIF ORGANIZATION CHART

SJJIFは“柔術をオリンピック競技に！”をスローガンに掲げて、世界各地で柔術の競技大会の開催や普及活動に取り組んでいます。

SJJIF(スポーツ柔術国際連盟)の組織図



ス ポーツ柔術国際連盟は2013年にアメリカを拠点として設立され、柔術の普及とオリンピック種目への採用を目指しています。

これらを実現するため、SJJIFは各大陸に連盟を設けており、ASJJFは、アジア各国における啓蒙活動と柔術大会の運営、プロモーションを担っている

団体です。

SJJJFは国別連盟にあたり、ASJJFの統括の下に日本での大会運営などを中心に活動を広げています。

ASJJF & SJJJF 大会レポート

Report

新型コロナによる行動制限が解除されコロナ禍以前の形に戻りつつある柔術界。
今号も日本だけでなくアジア各国で開催された大会や、プロ大会、キッズ、パラ柔術まで
幅広くレポートしています！ 各選手の活躍をぜひご覧ください！



COPA DUMAU
MARIANAS PRO JAPAN
TOKYO SPRING
TOKYO INTERNATIONAL
CENTRAL JAPAN

ART.4
柔術甲子園
ART Philippine.1
KYUSHU INTERNATIONAL
TAIWAN INTERNATIONAL

COPA DUMAU 2023

DATE: 2023年2月4日(日)

VENUE: 湖西アメニティプラザ

今大会が開催された静岡県の湖西市は浜名湖が観光名所で東京や名古屋からも比較的行きやすい場所のため、首都圏や中部からの遠征組も多く大いに盛り上がっていた。

下)ノーギ黒帯はミドルでハッキン・シウバ(カーロストヨタBJJ)と、オープンプラスはエヴェルトン・アサオ(Impacto BJJ)との決勝戦を制した白木大輔(CARPE DIEM HOPE)がWゴールド。



上)ノーギWゴールドの後にギにも参戦した白木はアダルト黒帯ライトでハッキンと瀬谷俊彦(トラスト柔術アカデミー)に勝利して優勝、1大会で3つの金メダルを獲得。



ノーギのオープンプラスでは優勝を逃したが、階級別で優勝し、さらにギありではWゴールドだった"トラオン"ことエヴェルトン・アサオ(Impacto BJJ)。マッチョなパワータイプの選手だ。



レオナルド・マサトとヴィトー・ホドリグスのRRTコンビでアダルト紫帯オープンプラスをクロースアウト。3位はシーザー・ゴンザレス&ボビー・ヤマシタとなっている。

2023年の幕開けはコパ・ドゥマウから ギ&ノーギ、キッズで好勝負満載



今大会で青帯デビューとなったニコリー・セキタニ(セキタニ柔術アカデミー)は日本名は愛歌という。階級別ではジュブナイル青帯ライトフェザーで優勝、無差別はアダルトで3位入賞。



佐野カイヤ(Axis)はキッズカテゴリーで大活躍し、ギとノーギで3つの金メダル=トリプルゴールドの快挙。特にノーギではアダルト青帯ライトフェザーでオトナに混じっての優勝は特筆モノ。



いまキッズカテゴリーで破竹の勢いなのがカールストヨタBJJだ。この3人はみんな優勝で、左からヴィート・スズキ、エンゾ・イマザト、クリスチャン・マツオの将来有望なキッズトリオだ。



チーム表彰の優勝チームはセキタニ柔術アカデミーで、今大会のホストアカデミーでもあった。各カテゴリーに満遍なく選手を送り込んだだけでなく大会スタッフも多く派遣している。



佐世保基地の米兵柔術家であるボビー・ヤマシタはギとノーギで出場し、ノーギのアダルト紫帯オープンクラスで優勝。レスリングが強く、それを活かしたのが戦冠に繋がった。



RIZINファイターの内山拓真(ボンサイ)もときたま柔術マッチに挑戦中。いままではなかなか結果が出なかったが今大会ではアダルト紫帯ライトのワンマッチ決勝戦で優勝した。

MARIANAS PRO JAPAN 2023

DATE: 2023年3月25日(土)

VENUE: 駒沢オリンピック公園体育館

今大会の成績優秀者にはグアムで開催されている「マリアナスオープン」のトラベルバックが贈呈されるのが人気でグアム行きを目論む選手たちの激戦を紹介していく。

アダルト黒帯オープンクラス決勝戦のトーマス・ミッツ (CARPE DIEM) vs グラント・ボグダノフ (ALMA FIGHT GYM LIFE) は過去の対戦ではトーマスが勝利しているが今大会ではグラントがリベンジ勝利。



本来はマスター4のホジェリオ・クリスト (EVOX BJJ) だがグアム行きを狙ってマスター1で出場も盤石の試合ぶりで優勝。マスター1黒帯オープンクラス決勝戦は腕十字で一本勝ちした。



アダルト茶帯オープンクラスの決勝戦はIGLOOのエリック・メネギンとマイク・オオウラでクローズアウト。じゃんけんて勝ったエリックが優勝でトラベルバックを獲得。



ともに柔道をバックボーンとする岡明大(PATO STUDIO)と白坂奏(CARPE DIEM)のアダルト紫帯オープンクラス決勝戦は立ち技の攻防が続く中、最後は岡が白坂を絞め落とす衝撃のフィニッシュ。



いまや世界的な強豪となったフェルナンダ・クリスト(EVOX BJJ)の強さは凄まじくグアムから参加のジェローニ・グンダオリ(ハイツアカデミー)をトーホールドで一蹴し、女子アダルト黒帯オープンクラスで優勝した。

久しぶりに開催のマリアナスプロ日本大会 今大会の優勝者はグアムでの大会出場へ



キッズ部門のチーム優勝はCARPE DIEM MITAでトラベルバック2つをゲット。CARPE DIEM MITAはキッズキャンプなどを行ってキッズ柔術家の育成に力を入れており、この結果にも納得だ。



女子のチーム優勝はINFIGHT JAPANとなった。特筆すべきは3位にグアムから参戦のATOS GUAMが入っており、海外大会でも入賞するのはすごいことだ。



アダルト部門のチーム優勝もINFIGHT JAPANで、女子とアダルトでチーム優勝を果たしたため、2つのトラベルバックを獲得しており、誰がグアムに派遣されるのか楽しみだ。



Over Limit BJJがマスター部門のチーム優勝。Over Limit BJJは国内よりも韓国や中国、フィリピンの支部の選手たちが大参戦して活躍していたのが印象的だった。



今大会きっての注目の一戦だった大柳敬人(CARPE DIEM) vs 山中健也(IGLOO)の初対決はサドデスで山中に膠着のペナルティが入ってあっけない幕切れに終わる。



アダルト黒帯ライト決勝戦はグアムを代表する選手のオリバー・クルズ(PUREBREDグアム)と卯都木豪(CAVE)の対戦でオリバーからバックを奪った卯都木が4-0で判定勝ち。



グアムのライバルチームのトップ対決のアダルト黒帯スーパーヘビー決勝戦、アンソニー・クルーズ(カウソングレISHIーグアム) vs デヴィッド・ハリス(PUREBREDグアム)は腕十字を極めたアンソニーが一本勝ちした。



マスター1黒帯ミドル決勝戦の高本裕和(高本道場) vs パク・ギョンデク(OVERLIMIT BJJ KOREA)は高本が引き込みからのヒザ十字を極め、僅か20秒の秒殺一本勝ちで優勝した。



本来はフェザーのトミー・ヤノ(IGLOO)だが対戦相手不在でライトに階級アップも問題なく優勝。決勝戦は韓国人のキファン・ヨン(ASM BIGFOOT JJ)から危なげなく判定勝ち。

グアムと日本の柔術を通じた国際交流 海外勢との対戦は貴重な経験となるだろう



茶帯の屈指の好カード、斉藤晶(INFIGHT JAPAN)vsエリック・メネギン(IGLOO)の初対決が実現。ライトフェザーと無差別で2度対戦し、1勝1敗の戦績に終わる。決着戦が見てみたい。



本来はルースタアの山田海南江(IGLOO)だが2階級上げてフェザーで出場し、ドミ・ファン(TORNADO BJJ)にマウントからのエゼキエルを極めてワンマッチ決勝戦を制した。



国内トップ茶帯の岸田蘭音(RATEL GYM)はライトで一人優勝、オープンクラスでドミ・ファン(TORNADO BJJ)とワンマッチ決勝戦で絞めを極めた岸田が一本勝ちでWゴールドを獲得。



女子アダルト紫帯のライトとオープンクラスのワンマッチ決勝戦で2連戦したで優勝リズマ・フランセスカ(PUREBREDグアム)とアユミ・カナシロ(ボンサイ)は1勝1敗でイーブンの痛み分け。



マスター世代の砂川久美子(上野御徒町ブラジリアン柔術部)がアダルトにエントリーレヘナータ・ハルミ(INFIGHT JAPAN)に挑んだ女子アダルト紫帯フェザー決勝戦はヘナータが腕十字で返り討ち。



大会にはグアムに縁がある山本美憂も来場し華を添えた。主催者のステイブ・シミズと歓談を行い協力関係を約束。今後は日本とグアムの橋渡し役となってくれることを期待したい。

TOKYO SPRING 2023

DATE: 2023年3月26日(日)

VENUE: 駒沢オリンピック公園体育館

ASJJFの春の祭典という趣の今大会はその名に相応しい華やかな雰囲気で開催された。前日開催のマリアナスプロジャパンから連戦していた海外勢の出場もあり豪華な顔触れが揃っていた。

マリアナスプロとトーキョースプリング

2日間連続開催で強豪選手が多数参戦



アダルト黒帯はライト級のみが行われ、その決勝戦はキム・ハンヒ(Hon Jiu Jitsu)と後藤拓磨(Flow Jiu Jitsu)の日韓戦。試合はサドンデスでテイクダウンしたキムが激戦を制す。



マスター1黒帯フェザーで優勝した八巻祐(X-TREME EBINA)はマリアナスプロ&トーキョースプリングの2日連続優勝に輝く。マスター1だがアダルトでも通用する実力者だ。



マスター1黒帯ミディアムヘビー&オープンクラスを制してWゴールドを獲得したユ・ソンフン(Asm Bigfoot Jiu Jitsu)は韓国からの参戦。終始安定した試合ぶりだった。



スーパーヘビー優勝のランジェルはオープンクラスでも盤石ぶりを見せてWゴールド。このところランジェルの好調具合は群を抜いており、コンディションのよさを感じさせた。

ランジェル・ロドリゲス(RRT)はマスター2黒帯スーパーヘビーのワンマッチ決勝戦で田端祐介(パラエストラ千葉)に三角絞めを極め快勝。重量級だがガードもうまい。



いまやASJJF主催大会のレギュラー選手となっている白木"アマゾン"大輔(CARPE DIEM HOPE)はマスター3黒帯ライトで余裕の優勝。大会によってアダルトやマスターを選んで出ている。



"バトレ"カーロス・キハラ(Impacto BJJ)は今大会では階級を上げてマスター4黒帯フェザーに出場したが持ち前のガードワークを駆使して問題なく優勝している。



INFIGHT JAPANのベテラン黒帯、デニス・ヨシダはマスター5黒帯ミドルのワンマッチ決勝戦でAXIS一富代表の白井秀幸から勝利して金メダルを手に入れている。



圧倒的な強さを誇っているヨースキ・ストー (Impacto BJJ)はマリアナスプロジャパンとトーキョースプリングの2連戦でギ&ノーギで無敗で制し、合計6つもの金メダル獲得は驚異的。



アダルト黒帯はライト級のみが行われ、その決勝戦はキム・ハンヒ(Hon Jiu Jitsu)と後藤拓磨(Flow Jiu Jitsu)の日韓戦。試合はサドンデスでテイクダウンしたキムが激戦を制す。



3人巴戦だったアダルト茶帯ライト決勝戦はキ・ヨンファン(Asm Bigfoot Jiu Jitsu)が田中翔馬(パラエストラ岐阜)にトーホールドを極めて一本勝ちで優勝。



アダルト茶帯のオープンクラスはINFIGHT JAPANのデヴィッド・ヌネスと斉藤晶が決勝戦に勝ち上がってクローズアウト。オープンクラスでは試合がなかったデヴィッドに優勝を譲られている。



凄まじいポイントを稼いだバク・イヒン(WIRE JJ)は坂留知弥(RRT)からなんと50-0から腕十字を極めて6:42一本勝ちでアダルト紫帯ライトフェザーを優勝。まさに圧勝という試合内容だった。



アダルト紫帯フェザーは優勝から3位までの表彰台を韓国人選手が独占。この決勝戦はバク・インソル(WIRE JJ)がキム・スングル(Hon Jiu Jitsu)に送り襟絞めを極めてフィニッシュ。



今大会のベストマッチとなったアダルト紫帯ミドル決勝戦の白坂奏(GARPE DIEM HIROO) vs ビクトル・ロドリゲス(RRT)の試合は8-4で白坂が勝利してマリアナスプロのリベンジを果たして優勝。

長く日本で戦っていたセサル・ゴンザレス(INFI GHT JAPAN)が今大会を最後に米国へ帰国。最終戦はアダルト紫帯ライト決勝戦でイ・センソ(Hon Jiu Jitsu)に勝って優勝、有終の美を飾った。

パラ柔術の試合も実現 高田延彦も来場し華を添えた



過去にも対戦しているレオナルド・マサト(RRT)と谷口実(RBアカデミー)だが今大会でもアダルト紫帯ヘビーのワンマッチ決勝戦で再び対戦しレオナルドが送り襟絞めで一本勝ちし連勝。



アダルト紫帯オープンクラス決勝戦はRRTのビクトル・ロドリゲスとレオナルド・マサトが勝ち上がったのクロースアウト。ミドル準優勝のビクトルが優勝、ヘビー優勝のレオナルドが準優勝に。



高校生の吉永愛(パラエストラ岐阜)と中学生のハファエラ・アユミ(INFIGHT JAPAN)がアダルト青帯の無差別決勝に勝ち上がった初対決は4-2で吉永が勝利した。



ASJFJFの大会ではパラ柔術マッチも行われており、柔術は身体的なハンディキャップがあっても試合ができるのがいい点。これからパラ柔術家は増えていくだろう。



今大会には高田延彦氏も視察で来訪。いま真摯に柔術を練習中という高田氏がアラバカンカ柔術の山田重孝氏、ASJFJF代表エジソン・カゴハラ氏と記念撮影に取まる。

TOKYO INTERNATIONAL 2023

DATE: 2023年5月13日(土)、14日(日)

VENUE: 墨田区総合体育館

2日間に渡って行われた今大会、初日はノーギとギありの紫帯まで、2日目はキッズと茶帯 & 黒帯というスケジュールで熱気溢れる大会となっていた。



鍵山士門(QUIP)がアダルト黒帯フェザーのワンマッチ決勝戦でヘナート・オリヴェイラ(GFチーム)に9-0で完勝。日本人黒帯の試合は見応えがある。

GFチームの黒帯、ヘナート・オリヴェイラ 大会初参戦も優勝ならず



すでにマスター世代ながらバリバリ活躍中の高本裕和(高本道場)が今大会ではアダルト黒帯ミドルに参戦。ここで黒帯2年目のイゴール・ウラタ(Impacto BJJ)に4-2で勝利 & 優勝ですがの強さ。



アダルト黒帯オープンクラスにのみ出場の市川公貴(トライフォース五反田)が3人巴戦を制して黒帯デビュー戦で優勝。茶帯でしっかりと実績を残してるだけに黒帯でもすぐに結果を残した。



アダルト茶帯ミドル決勝戦はイ・ジュンファイ(ジョンフランクル)とヴァヴリッカ・クリストファー (パラエストラ東京)で、イがヴァヴリッカに4:36腕十字で極めて一本勝ち。



ジュブナイル青帯ではフェザーとオープンクラスで佐野カイラ(Axis)と根井博斗(パラエストラ千葉)が2連戦も佐野が2連勝してWゴールド。佐野はノーギでもWゴールドで4つの金メダルに手にした。



アダルト茶帯オープンクラス決勝戦はアン・テウ(ジョンフランクル)vsジョン・テヨン(ジョンフランクル)が勝ち上がりクローズアウト。今大会は韓国勢の躍進ぶりが目立っていた。



女子アダルト青帯のオープンクラスで優勝した柳朝海(マスタージャパン)は柔道ベースの選手でトップポジションの強さが抜群。過去大会でも数多くの戦績を残している。

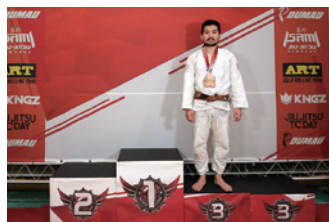


アダルト紫帯ミドルのワンマッチ決勝戦で澤木勇太(URUSHI DOJO)からRNCを極めて一本勝ちして優勝したビクトル・ロドリゲス(RRT)。極めての強さは折り紙付きだ。

決勝戦が両者失格の場合は優勝＆準優勝の記録はなくなるため、アダルト茶帯ライトフェザー表彰台は3位の福元大介(CARPE DIEM HIROO)のみとなってしまった。これは珍事だろう。



アダルト茶帯ライトフェザー決勝戦、斉藤晶(INFI GHT JAPAN)vsキム・ヤンウ(ジョンフランクル)はWガードの攻防が続き、両者に膠着のペナルティが入り続けて両者失格という結末に。



CENTRAL JAPAN 2023

DATE: 2023年5月27日(土)

VENUE: 愛知県武道

愛知県武道の武道場で開催された今大会は締め切り一か月前に参加者 400 人が集まって早期締め切りの満員御礼。中部エリアの ASJJF 主催大会の盛況ぶりはホンモノだ。



**日本人 vs 日系ブラジリアンの
対戦が多数実現
総勢 400 人超えの大盛況大会に**

いまやレジェンドといっても差し支えないほどの存在感があるカーロス・トヨタ(カーロストヨタBJJ)も試合出場。マスター6黒帯ヘビーのワンマッチ決勝を賞禄の優勝。



クリスチャン・マツオの父であるヘルベルト・マツオ(カーロストヨタBJJ)もいつも親子で大会に出ている。今大会ではマスター2紫帯フェザーで準優勝し金メダルに一步届かず。



マスター3黒帯フェザーで優勝した岩村将秀(パレストラ東大阪)は決勝戦で地元の後藤貴司(ALMA FIGHT GYM HOMIES)から三角絞めで一本勝ち。



精神的に試合経験を積む瀬谷俊彦(トラスト柔術アカデミー)はマスター2黒帯ライトのワンマッチ決勝戦でホドリゴ・イハラ(EVOX BJJ)に勝利しての優勝だ。



どの大会にもレフェリー兼選手として参加しているヨースキ・スター(Impacto BJJ)はギとノーギでメダル獲得も対戦相手の負傷欠場やクロースアウトで試合は1回もなかった。



ノーギのアダルト黒帯フェザーは4人トーナメントが成立し、ここで2回勝利して優勝したのは長谷川史(ハッシュンジム)。長谷川はギにも出場したが相手が負傷欠場で不戦勝だった。



娘の柚花の母である根津幸恵(トラスト柔術アカデミー)女子がマスター2紫帯フェザーで2試合を勝ち抜いての優勝。今大会では娘も優勝しており親子で金メダル獲得となった。



2試合連続の一本勝ちでジュブナイル青帯ライトを優勝した井田侏(Impacto BJJ)は極めが強く動きもキレていた、これからの活躍ぶりに期待大。



EVOX BJJのジボイア & アリーネの長女・エドゥアルダが女子ユース灰帯フェザーの3人巴戦で初戦をまさかの敗退も敗者復活戦を勝ち上がってリベンジ優勝。決勝戦は腕十字で一本勝ちした。



関西から名古屋に遠征して出場の山本紗世(CARPE DIEM ASHIYA)は女子ユース灰帯ライトフェザーのワンマッチ決勝戦でガブリエラ・フカボリ(EVOX BJJ)に腕十字を極めて瞬殺勝利している。

ART.4

DATE:2023年7月2日(日)

ミュージックホール

ASJF 主催のプロ柔術「ART」は早くも4回目の開催となった。メインの日本 vs ブラジルを筆頭に今大会では国際戦が多数組まれている。



今大会のメインは石黒翔也とヘナート・オリヴェイラによる日本vsブラジルの国際戦で、未知の強豪・ヘナートからわずか1:28でフットロックを極めた石黒翔也が一本勝ちで大会を締めた。

**ART 旗揚げ戦以来の参戦の
石黒翔也がフットロックで秒殺
大会メインイベントを
一本勝ちで締めた**



セミファイナルで組まれたマスター黒帯の注目の一戦、白木大輔vs高本裕和は本戦で決着つかずのサドンデスに突入。ここでパスガードを決めた高本が接戦を制した。



広島でASJFの大会サポートもしている森戸新士がART初参戦。セミ前で瀬谷俊彦と対戦し、12-0という大差の判定勝ちで今後もART継続参戦をアピール。



アダルト茶帯の日韓戦である藤田大vsイ・ジュンヒのは得意技のエゼキエルを効果的に仕掛けつつポイントを重ねていた藤田が9-2で勝利。極めきれずも試合内容は圧勝とっていいだろう。



開催直前に決まった斉藤晶vs谷口雄基の茶帯マッチはスリーブの応酬の中、4-2で斉藤が競り勝つ。両者とも急なオファーでの試合出場だったが好勝負となっていた。



韓国でも名を知られるアン・テウとスペイン出身のベルトラン・キーナの韓国vsスペインの国際戦はサドンデスでテイクダウンを決めたアンが国際マッチを制した。

今大会唯一のノーギマッチであるビクトル・ロドリゲスvsフランク・ロレンゾの伯米戦はスタンドの攻防に多くの時間を費やすも決着つかずの大混戦。サドンデスでバックを奪ったビクトルが辛勝。





両者ともMMAをバックボーンとする平澤宏樹と城戸泰介の対戦はサドンデスでテイクダウンに成功した平澤が勝利も、やや消化不良気味の試合内容だった。



ともに中学生ながらジュブナイル青帯で組まれた佐野カイラvsクリスチャン・マツオが実現。試合は佐野が4:28ベースボールチョークを極めて一本勝ちでフィニッシュ。



キッズトップ対決の宮城壮一郎と春日唯都は本戦で2-2からのサウンデスに突入し、ここで勢よくテイクダウンを奪った春日が勝利となった。



ASJJF主催大会のレギュラー選手の諏訪遊希が白木アマゾンの愛娘・白木希幸を相手にするも1:16 アメリカーナで一蹴。やや対格差があるマッチメイクだったため同体格での試合が見たい。



ARTの本戦幕開けは小学生低学年の女の子のワンマッチ、杉内志生と根津柚花の初対決からスタート。試合は腕十字で杉内が勝利し、大会後は二人仲良くお友達になっていたのが微笑ましい。



今大会の配信ブースにはお馴染みのセラチエン春山 & 大柳敬人の他にRIZINガールとしても活躍するあきびが初参加。解説とメダルガール、試合後コメントなどを務めている。

プロ柔術「ART.4」公式結果

■第12試合 黒帯フェザー

○石黒翔也(CARPE DIEM MITA)
(1:28 フットロック)
×ヘナート・オリヴェイラ(GFチーム)

■第11試合 マスター黒帯ライト

×白木大輔(CARPE DIEM HOPE)
(サウンデス・パスガード)
○高本裕和(高本道場)

■第10試合 黒帯ライト

○森戸新士(Leos Jiu Jitsu Academy)
(12-0)
×潮谷俊彦(トラスト柔術アカデミー)

■第9試合 茶帯ミドル

○藤田 大(パラエストラ千葉)
(9-2)
×イ・ジョンヒ(ジョンフランクルJJ)

■第8試合 茶帯フェザー

○斉藤 晶(INFIGHT JAPAN)
(4-2)
×谷口雄基(パラエストラ千葉)

■第7試合 茶帯ライト

○アン・テウ(ジョンフランクルJJ)
(2(-2)-0 サウンデス・テイクダウン)
×ペルトラン・キーナ・ケビン(ねわざワールド小江戸)

■第6試合 ノーギ紫帯ミドル

○ビトル・ロドリゲス(RRT)
(2-2 サウンデス・バックマウント)
×フランク・ロレンゾ(Leos Jiu Jitsu Academy)

■第5試合 紫帯フェザー

○平澤宏樹(ALMA FIGHT GYM LIFE)
(サウンデス・テイクダウン)
×城戸泰介(LEOS Jiu Jitsu academy)

■第4試合 ジュブナイル青帯フェザー

○佐野カイラ(Axis)
(4:28 ベースボールチョーク)
×クリスチャン・マツオ(カーロストヨタBJJ)

■第3試合 ジュニアティーン黄帯ライトフェザー

×宮城壮一郎(フリーダムOZ)
(2-2 サウンデス・テイクダウン)
○春日唯都(CARPE DIEM MITA)

■第2試合 女子プレティーン黄帯フェザー

○諏訪遊希(X-TREME EBINA)
(1:16 アメリカーナ)
×白木希幸(CARPE DIEM HOPE)

■第1試合 女子ユース灰帯ライトフェザー

○杉内志生(ボゴナクラブジム)
(1:12 腕十字)
×根津柚花(トラスト柔術アカデミー)

■オープニングマッチ第3試合

紫帯ライト
○高須晋大(パラエストラ柏)
(6-0)
×萩野貴旺(LEOS Jiu Jitsu Academy)

■オープニングマッチ第2試合

紫帯フェザー
×ウィニシウス・アラカキ(Impacto BJJ)
(2:00 腕十字)
○関澤 翔(パラエストラ古河)

■オープニングマッチ第1試合

女子ティーン 橙帯フェザー
○吉永さくら(パラエストラ岐阜)
(1:39 腕十字)
×高原志季(パラエストラCNW)

柔術甲子園

DATE:2023年7月15日(土)

VENUE:墨田区総合体育館

ISAMIとSJJJFのコラボ企画「柔術甲子園」は高校生を対象にした特別な大会だ。これから活躍が期待できるであろうライキのいい高校生柔術家たちの活躍を見よ!



ジュブナイル青帯ライトフェザーのワンマッチ決勝戦は劇的なフィニッシュ。MMAでも活躍中の根井博登(パラエストラ千葉)が中村夢叶助(グレイシーバハ富士宮)を瞬殺で極めた。



井田徠(Impacto BJJ)と佐野カイラ(Axis)の間で争われたジュブナイル青帯フェザー決勝戦は井田が接戦を制して勝利、柔術甲子園初参戦で初優勝を決めている。

**将来有望な 10 代の
ティーンエイジャーたち
今後の成長ぶりも
楽しみだ**



ジュブナイル青帯ライトはワンマッチ決勝戦で尾崎宗一郎(徳島柔術)が菊池鈴央(パラエストラ小岩)から勝利して優勝。菊池は青帯デビュー戦で手痛い敗戦。



送り襟絞めのキレが素晴らしかった高橋瑞希(Crawforest)が小暮仁(ストライブルオハナ)から一本勝ちでジュブナイル青帯ミドルで優勝を果たす。



ART PHILIPPINE.1

DATE:2023年7月23日(日)

VENUE:Robinson's Galleria Cebu

フィリピンのセブで開催されたプロ柔術「ART」のフィリピン大会。記念すべき旗揚げ戦のメインは日本から参戦の石黒翔也が一本勝ちで大会を締めている。

初開催のフィリピン版プロ柔術が華々しく旗揚げ メインは日本から参戦した石黒翔也がフィリピン人黒帯を返り討ち



大会のメインに出場した石黒翔也(CARPE DIEM MITA)はライモンド・ヴァリラ(プロジェクト・ライフスタイル・マニラ)から腕十字で一本勝ち。ミディアムヘビーという対格差のある試合でも問題なく極めている。

Shoya Ishiguro (CARPE DIEM MITA), who competed in the main event, won by armbar from Raymond Varilla (Project Lifestyle Manila). He also had no problem in winning the match against a medium heavyweight opponent.



セミファイナルはフィリピン人同士の茶帯マッチ。フィリップ・アレグレ(ルーカスレプリ・フィリピン)がジェームス・ジャイミ(コブリンヤBJJマニラ)から勝利した。

Semi final match was a brown belt light weight between Filipinos. Philip Alegre (Lucas Lepri Philippines) won from James Jayme (Cobrinha BJJ Manila).



ノーギ茶帯ライトの試合はレオ・ガエラン(90/Eight BJJ)がペイジ・アリタオ(チェックマットフィリピン)から勝利している。

NO-GI brown belt light match was won by Leo Gaelan (90/Eight BJJ) from Paige Alitao (Checkmat Philippines).



女子紫帯ライトフェザーのシャンタ・カーロス(CARPE DIEM PHILIPPINES)とプリンセス・バカタン(OVER LIMIT BJJ)はプリンセスが制した。

Female purple belt light feather's match, Shanta Carlos (CARPE DIEM PHILIPPINES) against Princess Bacatan (OVER LIMIT BJJ) was Princess winning.

KYUSHU INTERNATIONAL 2023

DATE:2023年6月18(日)

VENUE:基山町体育館

九州で定期開催されている大会は基山町の全面協力もあり毎回多くの選手が集まって盛況になっている。

大拳参戦の韓国勢が猛威を振るう なんとヨースキが一本負けの大波乱



なんとヨースキ・ストーリー (Impacto BJJ) が敗れる波乱。ヨースキに一本勝ちしたキム・ジョンヨン(キングダム柔術)がマスター2黒帯ミディアムヘビーで優勝を果たす。



今大会は韓国勢の活躍が目立っていた。マスター1黒帯のジ・サンウォン(キングダム柔術)がミディアムヘビー優勝&オープンクラスはクロースアウトで準優勝。



九州大会で活躍中なのが安莉・朱里・愛梨の緒方三姉妹だ。CARPE DIEM KURUMEの所属で九州での大会だけでなく県外の大会にも積極的に参戦し結果を残している。

Team
Point

Adult 1.キングダム柔術 2.バラエストラ福岡イデDOJO 3.T-REX柔術アカデミー
Kids 1.TATORU 2.マスタージャパン 3.CARPE DIEM KURUME
Master 1.デスティニー柔術 2.CARPE DIEM KURUME 3.バッファロー柔術

TAIWAN INTERNATIONAL 2023

DATE:2023年6月24(日)

VENUE:南港スポーツセンター

台湾で開催された台湾国際は近隣諸国在住の日本人の参戦もあって盛況の様子だった。ASJFは日本だけでなくアジア各地で大会を開催している。

親日国の台湾でも大会定期開催中 現地在住の日本人や遠征組も多数参戦



台湾在住の村上直(ストレイト柔術)がマスター3黒帯のミドルとオープンで優勝してWゴールド。

Taiwan resident Tadashi Murakami (Straight Jiu Jitsu) won the Master 3 Black Belt Middle and Open class for W Gold.



マスター2黒帯ライトはボン・ハウソウ(ユニティ)が優勝。準優勝は河野理人(EMAC)で3位は小谷尚孝とコーリー・エリオット。

The Master 2 Black Belt Light was won by Boon Haw Soh (Unity). Second place went to Masato Kono (EMAC), with Hisanori Kotani and Cortey Elliott in third.



マスター4黒帯ライトフェザーは相澤史(Quip)がワン・ターシュン(九龍柔術)から勝利して優勝。

Master 4 Black belt Light Feather was won Fubito Aizawa (Quip) against Wan Tsz Shun (Kowloon BJJ).

細身の柔術着 NEWモデル

COMBATE

READY GO!!



モデル
トラスト柔術アカデミー代表
生田 誠選手



ISAMI
JIU-JITSU
KIMONOS

JJP-810

COMBATE柔術着

●サイズ/A0,A1,A2,A3

上下セット

白

¥15,180

(税込)

上下セット

青/黒

¥16,280

(税込)



ASJJF HIGH RANK BELT GRADING CEREMONY

高段者帯昇格式

柔術の黒帯は3段までは個人が承認して昇段していくが、それ以上の高段位の黒帯は連盟が承認して昇段していくシステムになっている。その高段者昇格式が初めて行われた。

3月26日(日) 駒沢オリンピック公園体育館



Tusyoshi Tani
BJJ CORE JAPAN ツヨシタニ
5段



Carlos Toyota
カーロストヨタ BJJ カーロストヨタ
4段



Renato Silva
INFIGHT JAPAN ヘナートシウバ
4段



Yoshihiro Fujita
藤田柔術 藤田義弘
4段



今回昇段した高段位黒帯の方たち

【6段】

タカオ・タニ / 谷柔術

【5段】

福住慎祐 / 福住柔術

ツヨシ・タニ / BJJ CORE JAPAN

ジャイルトン・クーンヤ / カーロストヨタ BJJ

【4段】

カーロス・トヨタ / カーロストヨタ BJJ

ヘナート・シウバ / INFIGHT JAPAN

藤田義弘 / 藤田柔術

アサダ・トシオ / BJJ CORE JAPAN

大内敬 / パラエストラ小岩

ダニエル・ベレイラ / BASE BJJ

小野瀬龍也 / REDIPS

ホジェリオ・クリスト / EVOX BJJ

エメルゾン・トダ / EVOX BJJ

弘中邦佳 / マスタージャパン福岡

荒牧誠 / マスタージャパン福岡

生田誠 / トラスト柔術アカデミー

ヨースキ・ストー / Impacto BJJ

エジソン・カゴハラ / OVERLIMIT BJJ



Asada Toshio
BJJ CORE JAPAN アサダトシオ
4段



Tatsuya Onose
REDIPS 小野瀬龍也
4段



Rogério Cristo
EVOX BJJ ホジェリオ・クリスト
4段



Emerson Toda
EVOX BJJ エメルゾントダ
4段



Makoto Aramaki
マスタージャパン福岡 荒牧 誠
4段



Makoto Ikuta
トラスト柔術アカデミー 生田 誠
4段



Rogério Suto
Impacto BJJ ヨースキ・ストー
4段



BJJ
U-JIU
JYU



カルペディエムホープ(岐阜)・カルペディエム名古屋代表

白木大輔

道場代表を務める傍ら、精力的に試合出場を続ける杉江アマゾン大輔こと白木大輔。

自身が手掛ける3つ目の道場を東京・立川にオープンすることも決まった。

そんな白木に試合に出続ける理由、その魅力とを尋ねた。

「試合は勝っても負けても 普通では体験できないことを味わえる」

——現在は名古屋にも道場を出されていますが、第一の道場ホープ(岐阜)を始めてどれぐらいになりますか？

2015年の8月からなのでちょうど8年になります。

——道場の運営・経営がありますが、選手としても試合出場を続けられています。

出なかった時期もあったんですけど、ここ最近ではまた爆発的に出ています。去年(4月)JBJJFの全日本選手権に出たんですけど初戦で負けて、このまま負けのまま終わるか、もう1回練習をしっかりとやるか迷ったんです。でもグラップリングのFINISHから試合オファー(22年5月)が来て、名古屋は場所的に選手が集まりやすいし選手練習をちゃんとやってみようと思って、練習をし出したのがまた出始めたきっかけです。

——充実した練習が積めたことで、また試合に気持ちが向いていった。

そうですね。その時のFINISHは自分の中で試合に向けてちゃんと作って勝つことができたので、もうちょっとやってみようかなと思いました。あと、若くて強い人って当たり前ですけど、ちょっと年を取った状態になっても強いというのに希少価値を感じて、じゃあまた頑張ってみようかと思って今日に至ります(笑)。

——若い時だけでなく年齢を重ねた今の状況から“強さ”を目指しているのですね。

それを頑張って一年半が経ちそうな感じで、コロナも落ち着いて大会も開催されてきていたので、もう月1ペースぐらいで出てやろうと思って始めたのが最初です(笑)。なんか突き進ん

じゃうところがあるので、気づいたらかなり出ています(笑)。

——そうさせるのは、やはり試合に出るのが面白いからなのでしょうか。

正直試合はシンドいなと思います(苦笑)。終わってみたら“面白かった”というのは感じるんですけど、やってる間はシンドくて、何回やっても緊張するなって思います。最初はたくさん出れば緊張もしないかと思ったんですけど、試合には慣れても毎試合緊張するなっていうのはあります(苦笑)。

——白木選手ぐらい試合に出ている緊張はするものなのですね。やはり試合は緊張するものと言いますか。

それはもうしょうがないし、自分の性格的なものもあるのかもしれない。ただ試合はやっぱりシンドいんですけど、メンバーさ

と同じ気持ちになれるかなと思います。寄り添う、じゃないですけど。

——シンドい、キツイ試合であっても身を引かずに出続けるのはそういったことがあるのですね。

そこもあるし、終わった後の達成感っていうのはたしかにあります。もちろん勝った方が嬉しいですけど、負けた時の何とも言えない気持ちっていうのも格闘技ならではのですね。なかなか味わえないものだし、それが大事というか、いい部分でもあるなとつくづく思います。

——たしかに勝つに越したことはないですが、負けてもやり切った、一つのことを乗り越えた感じは残ります。

一定の達成感はある、負けた時の何とも言えない気持ちというのも味わい深いというか。負けることも普通では体験できないことで、それも試合に含まれていると思います。

——そんな白木選手ですが、現在は膝を負傷し戦線離脱中です。

昔の積み重ねだと思うんですけど、前十字靭帯が切れているのと半月板の内側を損傷していて。今は手術するかそのまま保存療法で行くか考えています。手術になるなら欠場期間が伸びると思うし、保存にしてもしっかり治るまではできないので、久しぶりに練習を完全にやらないです。7月のARTが終わってから、練習らしい練習はして



いません。僕のスタイル的に膝が悪いと支障が出るので、あえてやらないで、ちゃんと治ってからまた準備をしようと思ってます。——では、回復を待ってまた試合に出場していくと。

ここまで長期欠場するのは、首を怪我して総合を引退して以来なかったので、この期間に普段できない練習や弱点、目が行かないところを修正できたらと思ってます。手術にしる保存にしる、長い目で見ればいつかは治るし、復帰するため急がず行こうと思ってます。自分が好きでやってるんですけど、勝っても負けても戦う姿を見せるのはメンバーさんや周りにいい影響

を与えていると思ってます。運営にもいい影響があると思うので、先ほど言ったように年を取っても強い、長く試合に出続けられる状態でいたい。もう18からやって今年43ですけど、いまだにこういう場に立たせてもらったり、そういう気持ちを味わせてもらえることに、一人ではできないですし周りに感謝しています。

INFORMATION

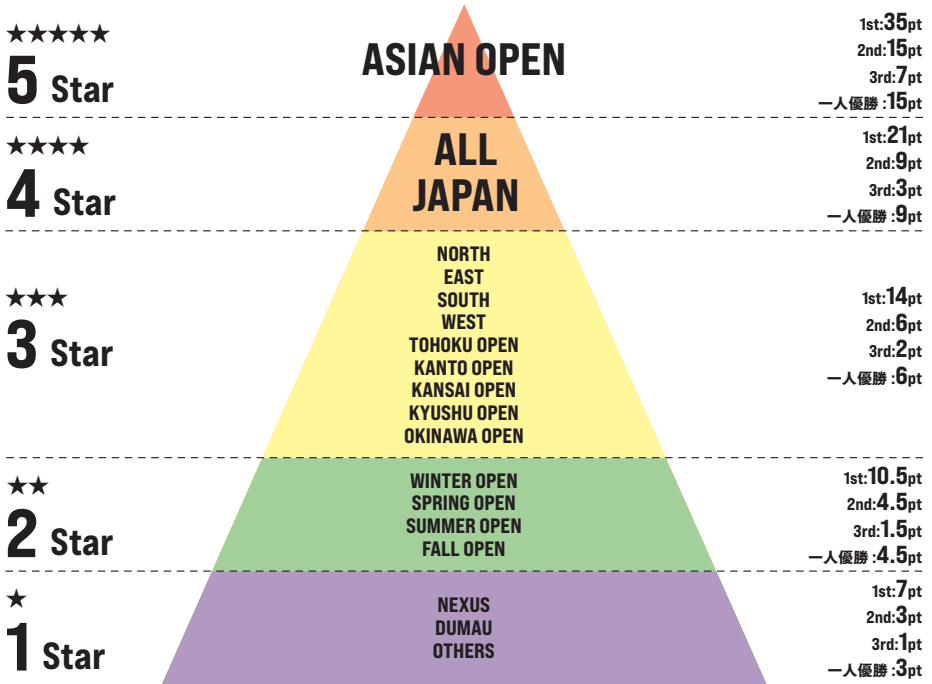
白木大輔が手掛けるカルペディエムホープ(岐阜)、カルペディエム名古屋に続く第3の道場「カルペディエム立川」(東京) 11月オープン予定!

※詳細はHP・各種SNSを要チェック

JAPAN RANKING 2023

ASJJF ではポイント制による年間ランキングを設けており、成績優秀者には表彰や翌年度の大会の出場費免除などの特典が与えられます。

大会のグレードと獲得ポイント数



A SJJFならびにSJJJFが主催、または提携する大会にはランキングポイントが定められており、入賞者には大会の格付けに応じたポイントが与えられます(上図参照)。ポイントは一年を通じ、獲得するごとに積み重ねられ、ポイント

数によるランキングが制定されます。ランキングは各カテゴリで設けられ(帯別、性別、年齢別)、成績優秀者^{*1}には表彰、さらに各カテゴリのランキング1位の選手には、2024年に日本国内で開催されるASJJF、SJJJF主催大会への参加費用

が免除される特典^{*2}もありますので、皆様には奮って大会へご参加いただきたいと思います。

なお、2023年度のランキングは2023年1月以降開催される大会から対象となりますので、お間違えのないよう詳細はASJJFのHPでご確認ください。

^{*1}: 各カテゴリには最低獲得ポイントが定められており、これを超えた選手のみが適用となります。

^{*2}: 100ポイント以上を獲得したランキング1位の選手が対象。



NRCD ねわワ倶楽部・代表

樋口幸治

国立障害者リハビリテーションセンター（NRCD）の職員である樋口は、「NRCDねわワ倶楽部」代表として脊髄損傷、脳性まひ、切断、視覚障がいなどの障がい特性や安全に配慮したパラ柔術支援を行っている。日々の活動で感じること、柔術が持つ可能性について聞いた。

——「NRCDねわワ倶楽部」の活動について教えてください。

私は障がい者施設の職員をやっていて、元は職員のクラブ活動として2、3人でやっていました。代表になったのは去年なんですけど、活動自体は8年ぐらい前からやっています。

——ご自身の柔術との関わりはどのように？

最初はフルコンタクト空手の練習をしていたんですけど、他の職員と「寝技も面白いんじゃないか」という話になって道場に通い始めて、でもなかなかそこに行けなくなったので自分たちでやるようになって、それが職員クラブになりました。

——現在の活動・練習はどちらでされているのですか？

施設の中に体育館があって、そこにマットスペースを作って週3回練習しています。最初は職員で始めたんですけど施設を利用する方の興味や希望もあり平日だと3人ぐらい、土曜日は障がいを持っている方が4～5人参加されています。車椅子の方が1～2名、視覚障がいの方が2～3名、あとは切断の方そのため柔術で黒帯の方がいて、その方に教えに来て頂いています。

——練習はどのようにされているのですか？

基本的なことが多くて、一般の道場でやっているベーシッククラスに時間を掛けてやっています。あとは技になると、それぞれの障がいによってできる・できないが出てくるので、それぞれ

の障がいに合わせてできるところを見つけていく、という作業をしています。そしてそれがある程度できるような技になったら打ち込みをして、その後スパーリングを3分で、多い方で3本ぐらいやります。

——障がいがあると習得するのは困難な技もあるのではないかと思います。

例えば、使えないところがあつたらできないのではなく、使えないところがあるからその技が別のものに変化したりするんです。なので練習の度に勉強させてもらっています。

——技を自分に合わせカスタマイズしていくのは、一般的な技の習得プロセスと変わらないのですか。メンバーで試合にチャレンジする方もいるとお聞きしています。

今は視覚障がいの方で3～4人、車椅子の方でも最近だと3～4人試合にも出て頂いています。

——体験だけでなく生活の一環として日常的に柔術に取り組んで、どんな声がありますか。

やっぱり出ている方は“負けたくない”っていうのが一番あると思うんですけど、障がいを持った方で身体一つを使って競い合うというのはなかなか機会が少ないので、そういうところに楽しみがあるかと思います。あとこれは我々もそうですけど、普段練習している中で得意な技ができてく

れば、それを試合で試して成功する喜びとか、そういったこともあります。それと遠征をすると移動をしたりいろんなことをしなきゃいけないので、それも含めて楽しみだと言っている方もいます。

——柔術をすることが、いろんな体験をする機会にもなっている

それぞれのライフスタイル、障がいのスタイルに合わせて柔術はいろいろ活用性がある



のですか。これまで活動されてきて、どんなことを思われますか？

エジソン(籠原・ASJJF代表)先生も含めいろんな方たちに協力して頂いているので、それぞれのライフスタイルに合わせてたり、障がいのスタイルに合わせて柔術はいろいろ活用性があるのかなと思っています。

——障がいも含め、いろんなライフスタイルに活用の仕方があると。

そうですね。僕は一応代表なんですけど、半分以上教えてもらっていることが多くて、なので指導者というよりは支援者という感じでいます。

——できない技があっても、一緒に考えながらやっている感じなのですね。今後についてはいかがでしょうか。

やっぱりパラ柔術をやる人たちが増えるといいなと思ってます。パラスポーツの一つとしてパラ柔術に絡んで頂いて、九州から北海道までいろんなところでパラ柔術が楽しめるところが増えるといいですよ。我々もいろんなところへ遠征に行こうと思っています。

——競技としてもライフスタイルとしてもパラ柔術がより広まってほしいですね。

スポーツ柔術連盟の目的にも入っていますけどパラリンピックやオリンピックなり、たくさんの人たちが楽しんで頂く種目

の一つになればいいなと思います。視覚障がいの方で一般の大会に出る方もいますし、車椅子の方でも座った状態で障がいのない方と技の攻防ができますし、いろんな条件下でやれる、一つのバリエーションとして面白いのかなと思います。

——広範囲の人が楽しめ、参加ができるのは柔術の可能性であり魅力ですね。

例えば車椅子のスポーツだったら専用の車椅子であつたりいろんなものが必要になってくるんですけど、柔術は道着とマットがあればできてしまうっていうのも面白さなのかもしれないです。

ASJJF Upcoming Events 2023 August-November

ASJJF では今後も多くのイベントを予定しております。
詳しくは ASJJF または SJJJF の HP をご参照ください。



South Japan Jiu Jitsu Championship 2023

佐賀県
基山町総合体育館
8月27日(日)



South Japan No-gi Championship 2023

佐賀県
基山町総合体育館
8月27日(日)



Tokyo Open Jiu Jitsu Championship 2023

東京都
墨田区総合体育館
9月9日(日)



Tokyo Open No-gi Championship 2023

東京都
墨田区総合体育館
9月9日(土)



Hokuriku Open Jiu Jitsu Championship 2023

富山県
新湊武道館
9月17日(日)



Dumau International Jiu Jitsu Championship 2023

愛知県
青山記念武道館
9月30日(土)、
10月1日(日)



Dumau International No-gi Championship 2023

愛知県
青山記念武道館
9月30日(土)



Kita Kanto Open Jiu Jitsu Championship 2023

群馬県
いずみ総合公園町民体育館
10月29日(日)



Kita Kanto Open No-gi Championship 2023

群馬県
いずみ総合公園町民体育館
10月29日(日)



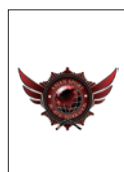
The King Of The Island Jiu Jitsu Championship 2023

沖縄県
沖縄市武道場
11月18日(土)



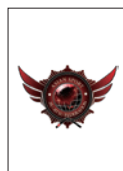
The King Of The Island No-gi Championship 2023

沖縄県
沖縄市武道場
11月18日(土)



Central Japan Open Jiu Jitsu Championship 2023

愛知県
青山記念武道館
11月25日(土)、26日(日)



Central Japan Open No-gi Championship 2023

愛知県
青山記念武道館
11月25日(土)、26日(日)

ASJJF、SJJJF のホームページはこちらから



ASAMI
JIU-JITSU
KIMONOS

LILY

リリーローズ

ROSE

女性のための柔術着

モデル
岸田 蘭音選手

女性の体に合わせたサイズ設計

従来の柔術着より
袖の長さは少し短め

腰回りに若干の余裕を
持たせて着やすく

JJP-820
レディース柔術着
Lily&Rose

●サイズ/F0,F1,F2,F3

上下セット

¥16,280
(税込)

JIU JITSU TODAY

【発行】



Asian Sport Jiu-jitsu Federation